

(2026年5月14日発表)

麻しん（はしか）患者の本市来訪について

- ・麻しん（はしか）患者が他者に感染させる恐れのある期間に、市内施設で不特定多数の方と接触した恐れがあるため、行動歴の一部を公表し、注意喚起します。
- ・接触した可能性がある方は、「2 患者と接触した可能性がある方へ」を参考に適切な行動をお願いします

【趣旨・背景】

- ・令和8年5月10日（日）に、静岡県外において、麻しん（はしか）患者発生届がありました。
- ・当該患者の本市への滞在が確認されたため、報道資料を提供するものです。
- ・この患者は、他者に感染させる恐れのある期間に静岡市内の施設を利用しており、不特定多数の方と接触した可能性があります。

1 麻しん患者の施設利用状況について

（1）対象施設

新東名高速道路 清水パーキングエリア（清水区小河内 885-15）

※対象施設への直接のお問い合わせはお控えください。

（2）施設利用日時

令和8年5月6日（水）12時15分～13時30分頃

※麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。

現時点において麻しん患者が利用した施設等を利用されても感染の心配はありません。

（3）備考

患者は自家用車で静岡県外から別の都道府県へ向かう道中での利用であり、静岡市内で上記施設以外の利用はありません。

2 患者と接触した可能性がある方へ

- ・麻しん患者と接触した可能性がある場合は、接触後最大21日間（5月27日まで）、体調に注意してください。発熱、発疹等の症状から「麻しん」への感染が疑われる場合は、事前に医療機関に「麻しん患者と同じ施設を利用した」こと等を連絡の上、速やかに受診してください。
- ・受診の際は、周囲の方へ感染を拡げないよう公共交通機関等の利用を避け、必ずマスクを着用してください。

3 麻しんについて

（1）症状等

- ・潜伏期は通常10～12日間（最大21日間）であり、38℃程度の発熱や咳、鼻汁といった風邪のような症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱と共に発疹が出現します。

（2）感染経路等

- ・空気感染のほか、飛沫や接触でも感染します。
- ・麻しんの感染力は非常に強く、感染者と同じ空間にいただけで感染することがあります。

- ・また、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発症するとされます。
- ・感染力（他者にうつす可能性）のある期間は、発症1日前から解熱後3日を経過するまでです。

（3）予防

- ・麻しんは空気感染するため、手洗いやマスクだけでは予防できません。
- ・予防接種が有効であり、予防効果を確実にするためには2回の接種が推奨されます。
- ・現在は、1歳（第1期）と小学校入学前年度（第2期）に、麻しん・風しんワクチンの定期予防接種が実施されています。
- ・予防接種を受けたことがなく、麻しんにかかったこともない場合には、ワクチン接種を受けることをお勧めします。

【問い合わせ先】

保健福祉長寿局 感染症対策課(保健所棟2階)、担当者:八木、稲葉

電話:054-249-3172